

■ メールマガジンの発行にあたって

全美教メールマガジン担当 山崎正明 (北翔大学)

本年3月に学習指導要領の告示があり、今後10年の教育の方向が示されました。私たちもそれに対応して、さらにその先を見据え、教員養成をどう進めていくかは、重要課題です。より質の高い教員養成を目指すために、互いに学びあいながら高め合っていきたいものです。このような流れの中、全美協として「メールマガジン」を発行することになりました。各会員が日頃どのようなことを課題に、どのようなことに取り組んでいるのかを互いに知ることが非常に有意義なことでしょう。様々な方々に書いていただくことで、日頃考えていなかったことに気が付いたりすることもあるかもしれません。多様な視点で考えることができる面白さもあります。こうしたことを通して全美協の活性化につながってほしいと思います。メールマガジンは当面は依頼した方々に書いていただくことから始めていきます。

■ 造形表現を通して育まれるものの価値を伝える

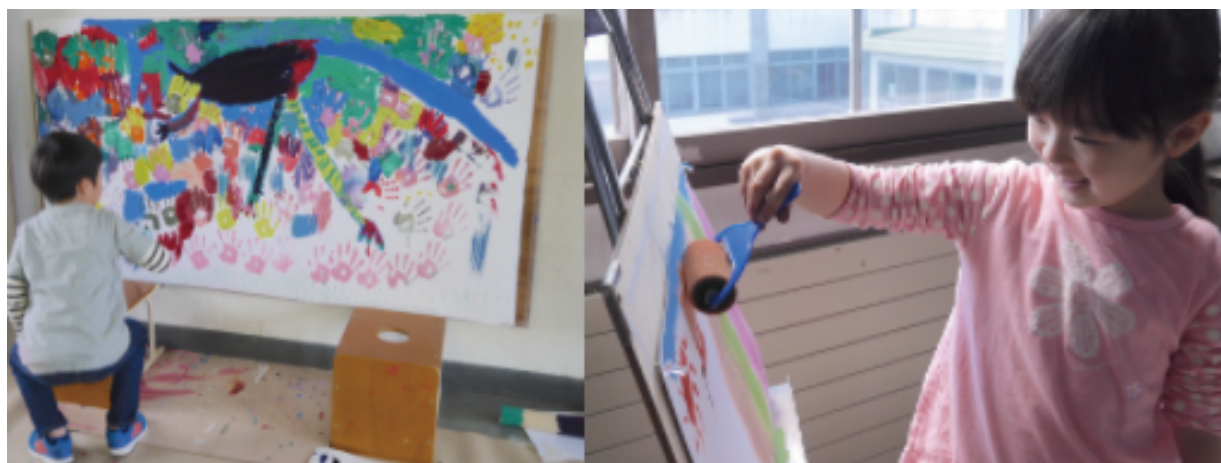
北翔大学教育学科 山崎 正明



幼・小・中・高の教育現場は必ずしも「教育要領」や「学習指導要領」などを踏まえたうえで造形・美術教育が行われているわけではない。こうした実態を踏まえ、大学教員として取り組んでいることを報告する。

2017年3月「学習指導要領」が告示された。「図画工作」「美術」の時間数は現状維持となった。しかし、これから10年先はどうであろうか？ これまでの学習指導要領改定の歴史を見ると「図画工作」「美術」は時間を削減され続けてきている。それは、「図画工作」「美術」の教育における教科としての存在価値を示しきれていないことも背景として考えられる。その象徴的な出来事が図画工作や美術の授業に行われている「上手な作品を作らせること」を目的とした授業¹⁾の存在である。こうした授業については美術教育の関係者の間では問題点として指摘されて来ている。しかし、こうした傾向は一向に減らない。犠牲者は子ども達である。

こうした傾向に歯止めをかけるべく、そして子どもの学びの豊かさを示すために二つのことに取り組んでいる。



1、表現を通して育まれるものをプレゼンする展覧会 「幼児・小学生・中学生の「美術と子どもの時間展」

<http://yumemasa.exblog.jp/26122775/>

ポルト市民講座

幼児・小学生・中学生・高校生の 造形表現・図工・美術の時間展

「美術による学び」について考える展覧会



8月6日(土)~28日(日)

10:00-19:00 8月12日(金)~16日(火)は休館

会場 北翔大学北方圏学術センターポルト
(札幌市中央区南1条西22丁目1-1)

主催 北方圏学術情報センタープロジェクト研究美術研究グループ

8月20日(土)午後1時からギャラリートーク

幼児、小学生、中学生、高校生が造形表現、図工、美術の時間を感じたり、考えたり、学んだりしていること~そこには子供たちが心豊かに生きていくための大切なものがたくさんまっています。しかし、従来の「作品展」では、そのことが十分伝わりませんでした。そこで、この作品展では、子供のつくった作品の他に、それに付随する言葉や映像も展示し、子供の表現の持つ意味や造形活動を通して育まれる力なども見えるような展覧会をめざしました。ぜひ、いらしてください。

- ・石垣 文子 (東京 アートラボ ニコ)・北村 幸江 (釧路光真幼稚園)・奥平 真由子 (べたんこクラブ)・岩崎 愛彦 (北広島市立大曲小学校)
- ・湯浅 大吾 (札幌市立三角山小学校)・小林 知広 (札幌市立手稲山崎小学校)・中村 珠代 (北海道教育大学附属札幌小学校)・石川 早苗 (札幌市立八軒中学校)
- ・館内 徹 (札幌市立西岡中学校)・寺林 陽子 (札幌私立あいの里東中学校)・庄子 展弘 (上富良野町立上富良野中学校)・更科 結希 (北海道教育大学付属釧路中学校)
- ・檜森 ふさ美 (千歳市立青葉中学校)・渡邊 麻子 (江別市立江別第一中学校)・田中 真二郎 (秋田県大仙市立西仙北中学校)
- ・野村 幸伸 (北海道おといねっぶ美術工芸高校)・手塚 昌広 (北海道江別高等学校)・佐藤 一明 (札幌平岸高等学校)
- ・黒木 健 (秋田県立西目高等学校)・岩佐 まゆみ (大分県立芸術緑丘高等学校)・山崎 正明 (北翔大学)・アルテビッツア美瑛 (こころを形作る授業) 他

お問い合わせ 山崎正明(北翔大学教育学科教授) 林亨(北翔大学芸術学学科教授) 北翔大学(代) 011-386-8011 山崎研究室 011-387-3985

これまでの「図工・美術」の展覧会では、どうしても作品という結果に目がいきがちであった。そんな中で美術の時間を通して育まれるものに目を向けた展覧会が登場した。三澤一実さん(武蔵野美術大学)らがよびかけて開催した「図画工作美術なんでも展覧会」²⁾

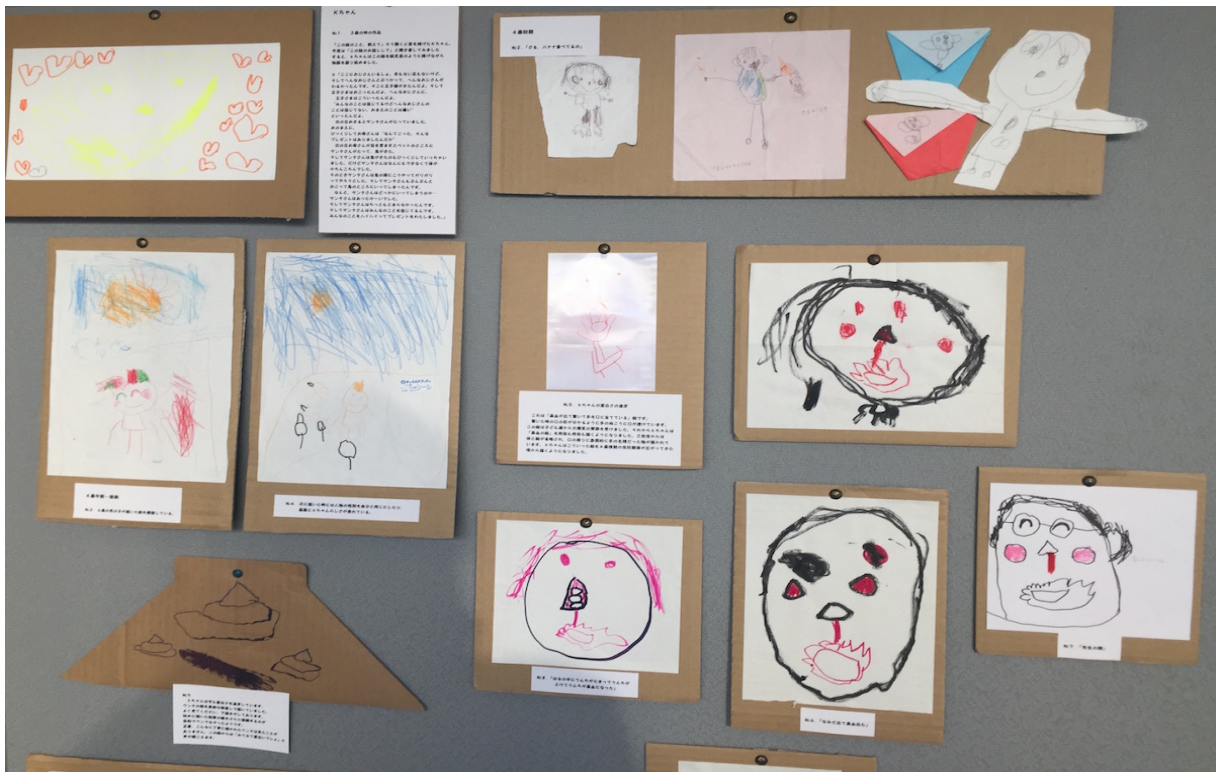
(2006年3月開催)

「授業展」が、はじまりであろうか。大阪の佐藤賢司さん(大阪教育大学)が呼びかけ人の「CGAT」展も継続的に開催されている。さらに愛媛県での木村早苗さん(松山市高浜小学校~当時)らによる「スケッチブック展」や山崎正明(千歳市立北斗中学校~当時)の「街かど美術館」、秋田の黒木健さん(秋田県立西目高等学校)、田中真二

郎さん(秋田県大仙市立西仙北中学)、山形の亀井道敬さん(山形県朝日中学校~当時)、大分の岩佐まゆみさん(大分県立芸術緑丘高等学校)らによる「美術の時間展」、北海道釧路の更科結希さん(北海道教育大学附属釧路中学校)の「ART and WE」など、これらの動きはまるでゲリラのよう。大事にしていきたい。こうした展覧会の流れを踏まえながら企画したのが「造形表現・図工・美術の時間展」である。今回は教員養成課程を持つ大学の附属施設(北翔大学 北方圏学術センターポルト)を使うことにこだわった。このような展覧会がすべての都道府県で開催されたら、大きな流れが生まれるに違いない。



↑ 作品と共に制作中の高校生の写真を解説付きで展示した。学びの解説をしている。
 (札幌平岸高校 デザインアートコース 佐藤一明さんによる)



↑ 作品につけられたキャプションは、表現（遊び）の様子を記録したもの。³⁾
 (ぺたんこクラブ主催 奥平 真由子さんによる)

* この作品展の記録は 2016 年のもの。2017 年、来年 2018 年も開催。今後も継続的に開催する。

2、目の前の子供の姿から保護者が学びを見とる場

子ども空間「キミのアトリエ」 <http://yumemasa.exblog.jp/26506853/>

「キミのアトリエ」では、子どもたちに、楽しい、面白いと思える環境を提供⁴⁾する。



北翔大学の一室に子どものためのアトリエがあります。
その名も「キミのアトリエ」
「キミのアトリエ」には絵を描く道具だけでなく、
様々な面白い素材がたくさんあります。
ここではそれらを使って子どもたちが自由に作ったり試したりして
自分の世界を広げていくことができます。
そう、ここは子どものための世界。
「得意」「不得意」なんて関係ない。
ここは思いを広げる空間。
「こうしたらどうなる？」を追求できる空間。
子ども達は一人一人が世界をもっています。
その世界を探求できるのが「キミのアトリエ」です。
小さな探求者の参加を、心よりお待ちしております！

こども空間 キミのアトリエ

「キミのアトリエ」は子どもたちが自由に表現活動するための場所です。

自らの手で、新たな価値を生み出していくという体験は非常に大切だと考えています。

開催日 2017年8月8日(火) 9日(水) 10日(木)

会場 北翔大学 137教室 江別市文京台23番地
(正門から入り、守衛さんに一声かけてください。)

8日(火)

年少対象(3~4歳) 10:00~11:30

小学生対象 13:30~15:30

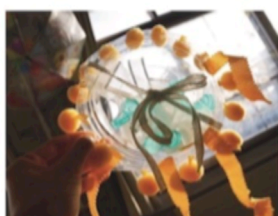
9日(水)

年中対象(4~5歳) 10:00~11:30

小学生対象 13:30~15:30

10日(木)

年中対象(5~6歳) 10:00~11:30



参加年齢：幼児から小学生まで(時間別) お問い合わせ：メールでお願いします。

申込方法：メールで参加者名と年齢をお知らせください。 料金：無料です♪

※素材に限りがありますので想定人数を超えた場合は先着順となります。ご了承ください。

メール：yamazaki@hokusho-u.ac.jp 電話・FAX：011-387-3985

担当：山崎正明(北翔大学教授)・奥平真由子(保育士・べたんこクラブ主催)

子どもが活動している間、保護者といっしょに「子どもの行為とその意味」などについて考える場としている。

子どもの「頭や心の中で起こっていること」をよみとっていくことを大切にする。こうすることで、保護者の意識が明らかに変わることがわかった。我が子の素晴らしさに気づく時間になる。

-
- 1) この展覧会は「一億人の図工美術」(DVDつき)として記録集として出版されています。入手可能です。お問い合わせは、武蔵野美術大学教授三澤一実さんまで。
<http://yumemasa.exblog.jp/10446004/>
 - 2) 代表的なものとして幼児教育現場に見られる、先生が子どもに作らせた「壁面装飾」や小学校では「酒井式描画指導法」中学校では膨大な時間を費やした透視図法を使った平面構成など。
 - 3) 表現、遊びの過程を記録化したドキュメンテーション～学びを記録するために様々な取り組みがあるが、美術教育の価値を示す根拠になりえるため重視したい。実際に展覧会でもこの記録を元に表現の過程をなぞりながら、そこに生まれた意味を考えることができる。ちなみにここでは「表現」という言葉を使っているが「遊び」と言ってよい。目の前にあるのは「作品」というよりも「遊びの痕跡」といった方が適切である。
 - 4) 環境の構成についてはイタリアのレージョエミアの教育なども参考にしている。

次号メールマガジン発行予定

第2号 11月1日発行：聖徳大学 大成哲雄先生
第3号 12月1日発行：桜花学園大学 浅野卓司先生